

都市再生整備計画(第9回変更)

みどりくみほ にいはるちく
緑区三保・新治地区

かながわけん よこはまし
神奈川県 横浜市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	緑区三保・新治地区	面積	600 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標

横浜市の緑の七大拠点の一つ、「三保・新治地区」と鶴見川とを結ぶ水と緑のネットワークの構築を目指して、地区内の緑地や水辺、農地、歴史的建造物等の地域資源や水辺の楽校プロジェクト等の資産を最大限に活用しながら、市民と協働して里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための里山空間を保全・創造することで、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図るとともに、来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化を促進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

三保・新治地区は、駅から近く、利便性の高い区域での住宅開発が進んでいる一方、横浜の原風景の一つである農と里山の景観が残されている地区です。地区内には市内でも最大級の大規模な緑地があり、横浜市緑の基本計画において「緑の7大拠点」に位置づけるとともに、地区の中央を流れる梅田川についても「鶴見川流域水マスタープラン」の中でも骨格となる河川として検討されており、「横浜市都市計画マスタープラン・緑区プラン」でも、これらを水と緑の貴重な環境資源として位置づけられています。このうち、新治地区では、「北の森構想」に基づいて、緑地や農地を一体的に保全しながら地域住民や地域外の市民が里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流する場として、生態系に配慮した持続可能な自然循環型環境の整備を行うとともに、拠点施設整備による来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化を目指しており、現在、(仮称)新治里山公園と緑地保全地区の都市計画決定へ向けて地域との調整を行っています。また、新治地区にある「旧奥津邸」については、歴史的建造物である長屋門等もあることから横浜市が寄附を受けており、この地区の特徴的な里山景観を構成する地域資源として保全しながら整備することが求められています。これまでもイベント等の暫定的な利用を通じて市民利用の拠点として活用方策を検討しているところです。一方、梅田川は、中流部から約1km区間を「水辺の楽校プロジェクト」事業で整備し、河川の利用・管理などについて地域連携した「水辺の楽校協議会」が、また地域が自主的に水辺の管理活動を行う「水辺愛護会」が組織され、学校等の地域と協調してイベントや活動等が行われています。これらの地域活動や意見を踏まえ、河川改修の工事の完了により、市が一級河川の管理権限委譲を受けたことによる効果を発現させるため、市民の河川利用促進・管理への市民参加を促進し、「水辺の楽校プロジェクト区間」と同様に水辺に近づけ、川で遊び・親しめる整備が強く望まれています。

課題

緑地や農地、河川等が一体となった里山空間の保全・創造と地域の活性化が求められている。市民が自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための拠点整備が必要。「旧奥津邸」を市民との協働により、市民利用ニーズに沿った利活用が求められている。拠点整備やイベント等の開催による来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化が求められている。鶴見川水系1級河川恩田川の合流点から上流約1kmまでは、昭和40年代から50年代に治水優先で護岸のみを改修し、親水性や生物生息環境に配慮されていない。下流区間においても、市民ニーズにあった整備や市民協働による維持管理が求められている。

将来ビジョン(中長期)

公園、緑地保全地区、市民の森、河川、農地等を里山空間として一体的に整備することにより、水と緑のネットワークを構築する。水と緑のネットワークの構築により、市民が総合的に自然環境を楽しみ、体験、学習、交流する場となるとともに、近隣小学校の総合的学習、環境教育の場となる。公園整備等による拠点整備による集客や農地の活用による観光農園等、市民が農とふれあえる場の整備により地域が活性化される。水辺の楽校協議会や水辺愛護会活動のフィールドが広がることにより、地域住民の意識の向上が図られ、住民と行政が協働した施設管理・愛護・美化計画の実現が可能となる。

目標を定量化する指標

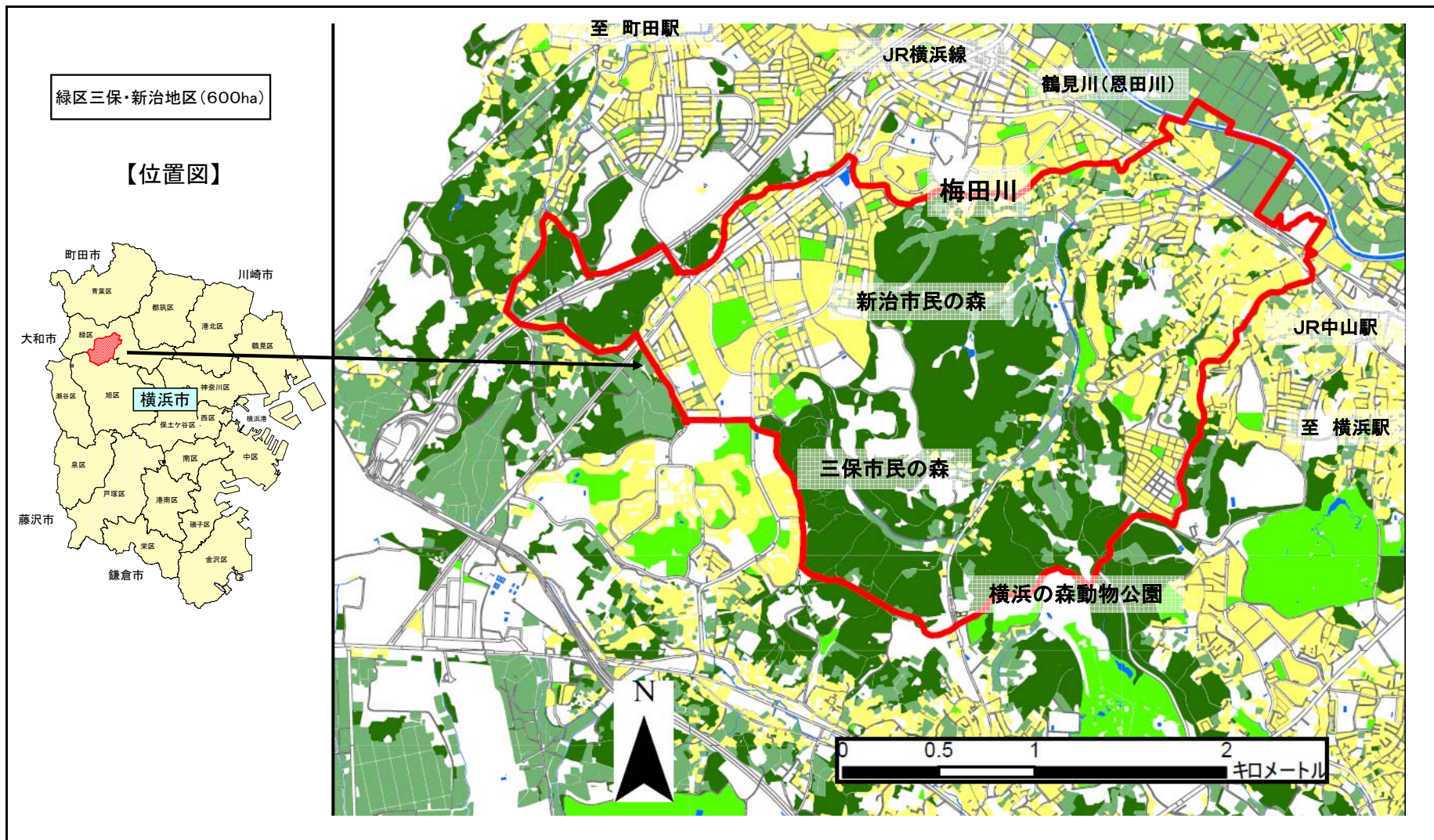
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
水辺愛護会等の加入者数	人	水辺愛護会等の活動団体の加入者	親しみやすい川を整備することにより、川で活動する水辺愛護会等の加入者数が増える。	64	平成15年度末	70	平成21年度
イベント参加者数	人	イベントに参加した一般市民の人数	公園、緑地保全地区、市民の森、河川、農地等を里山空間として一体的に整備することにより、川遊びをする人が増える。	265	平成14年度末	450	平成21年度
旧奥津邸の運営を担うスタッフの数 実行委員会・ボランティア	人	旧奥津邸活用実行委員会の加入者	市民活動の拠点となる施設を整備することにより、公園の運営を担う人材が増える	20	平成15年度末	25	平成21年度
旧奥津邸・玄海田公園イベント参加者	人	旧奥津邸・玄海田公園で主催するイベントに参加した一般市民の人数	市民活動の拠点となる施設を整備することにより、公園を利用者数が増加する。	722	平成15年度末	1200	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・緑地や農地、河川等が一体となった里山景観を保全・創造する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)新治里山公園整備 ・玄海田公園 ・梅田川河川環境整備 ・新治市民の森 ・霧が丘(旧第三小学校)流域貯留浸透事業
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するとともに地域の活性化にも資する拠点等を「旧奥津邸」なども活用しながら整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)新治里山公園整備 ・(仮称)霧が丘コミュニティハウス ・(仮称)霧が丘地域防犯・防災活動拠点等整備 ・(仮称)霧が丘地域ケアプラザ
<ul style="list-style-type: none"> ・拠点やプロムナード等の整備により水と緑のネットワーク形成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅田川親水拠点整備 ・梅田川プロムナード整備 ・市道北八期第453号線(三保地区)道路改良事業
<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑のネットワーク形成において親水性や生物生息環境に配慮した整備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅田川親水拠点整備 ・梅田川プロムナード整備
<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズに即した整備や市民協働による維持管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奥津邸実験活用事業 ・水辺愛護会補助事業(河川清掃に関する補助) ・(仮称)霧が丘コミュニティハウス ・(仮称)霧が丘地域防犯・防災活動拠点等整備 ・梅田川プロムナード整備
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

緑区三保・新治地区地区(神奈川県横浜市)	面積	600 ha	区域	横浜市緑区三保町・新治町、霧が丘、長津田みなみ台、長津田町の一部
----------------------	----	--------	----	----------------------------------



緑区三保・新治地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	横浜市の緑の七ヶ拠点の一つ「三保・新治地区」と鶴見川とを結ぶ水と緑のネットワークの構築を目指して、地区内の緑地や水辺、農地、歴史的建造物等の地域資源や水辺の築校プロジェクト等の資産を最大限に活用しながら、市民と協働して里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための里山空間を保全・創出することで、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図るとともに、来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化を促進する。	代表的な指標	水辺愛護会等の加入者数 (人)	64	(15年度)	→	70	(21年度)
			イベント参加者数 (人)	265	(14年度)	→	450	(21年度)
			「旧奥津邸」運営スタッフ数 (人)	20	(14年度)	→	25	(21年度)
			「旧奥津邸」イベント参加者数 (人)	722	(15年度)	→	1200	(21年度)

